

「老いへの抵抗」

藤澤 健治



写真 「第50回ベテラン強化リーグ」の様子①
(藤岡市民体育館にて)

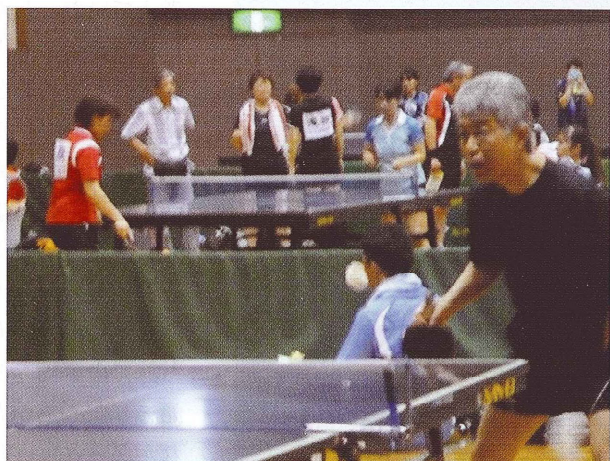


写真 「第50回ベテラン強化リーグ」の様子②
(ラケットを持って構える筆者)

中学生の時に観た映画「超高層のあけぼの」に深く感動し、学生の時にお世話になった先生方の影響で、構造設計の道に入った。

現在の自分があるのは、周りの人達に支えられてきたお陰であり、心より感謝を申し上げる。

机上の仕事のせいか、血圧・血糖値が高く、余りあるぜい肉を抱えて歩くと息が切れるようになったため、学生の時にしていた卓球を5年ぐらい前から始めた。

卓球ルールが大きく変わっているのに驚いた。2005年の耐震偽装事件と同じような衝撃だった。ボールは直径38mmから40mmに、試合は21点3ゲーム制から11点5ゲーム制(3ゲーム先取)になっていた。

練習は、職場のそばの「高崎市労使会館」でしている。そこには、幅広い年齢層の人達が練習にやってくる。練習は、ゲームが主である。この建物は3階建てのRC造で、練習は2階でできる。隣や下階は会議室になっていて、会議中でも練習できるので、遮音はしっかりしているよ

うである。

ここに来る80歳代の男性は、ほぼ毎日練習しており、全然呆けていない。動きは素早く、老眼に関係なく、ボールに印刷されたマークが見えるとのこと。日々の練習で、30歳ぐらいは、若返っているかもしれない。私よりも、体力があるように見える。この男性は、ある日のゲーム練習で負けると、次の日などに、また、同じ相手と、勝つまでゲーム練習する。サービスの種類やコースを考えて、攻め方を工夫する。負けるのが、悔しいそうだ。

このような気持ちだから若いのだろう。この男性を見ていると、卓球も仕事も、決まった時間の中で許す限り、納得いくまで考え、創意工夫を持って、気持ちを若く持ち、日々を過ごすことが大切と思うようになった。

練習だけであるとつまらないので、「群馬県ベテラン会」が主催する試合に参加するようになった。この会は、30歳代から80歳代まで、卓球競技の強化と普及を目指して活動して

いる。試合会場は、庚申山総合公園にある藤岡市民体育館と前橋総合スポーツセンター(群馬アリーナ)となっている。

試合で負けそうになると、天井面に露出した鉄骨トラスの骨組を見て、力の流れを気にしたりして、一息入れ、試合の流れを変えるようにしている。

写真は、6月最後の日曜日に行われた「第50回ベテラン強化リーグ」の時の様子を示す。福井県、愛知県や新潟県などからの県外の参加者もいる。

参加者は、皆、年齢に関係なく若々しい。「老いへの抵抗」として、少しでも元気で、仕事や生活をしていけるように、卓球を続けたいと思っている。

(次回は吉田 崇氏)

(ふじさわ・けんじ)
1957年生まれ 群馬県出身
81年東京都立大学大学院建築学専攻修了 現在、群馬県建築構造技術センター構造判定課課長 一級建築士 構造設計一級建築士 構造計算適合判定員 趣味は卓球、映画鑑賞

